



地球はひとつ！みんなの願い

山口県防府市立中関小学校

担当教科：小学校全科

金平 佳子

◆実践教科：総合的な学習の時間 ◆時間数：8時間 ◆対象学年：第5学年 ◆対象人数：120名

カリキュラム

◆実践の目的

マラウイの生活や子どもたちの様子を知り、違いを認めたり生き方に学んだりすることにより、世界に大きく目を広げられるようにする。

ココがすばらしい！

マラウイの子どもたちに児童の手作りのカルタや習字を贈り、マラウイの子どもたちからもカルタを作ってもらうなど、限られた時間内で工夫を凝らした交流を行った。体験学習を通してマラウイと日本の違いだけでなく、共通項に目を向けさせた。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	届いたよ！ みんなの想い	・マラウイに習字やカルタ、折り紙などを届けたことを伝え、マラウイの子どもたちに作ってもらったカルタで遊ぶ	・絵葉書 ・写真（クラスの子どもの習字やカルタを持っている） ・マラウイの子どもたちのカルタ
2	マラウイって どんな国？	・世界地図を描いてみる ・マラウイの概要について知る ・国旗の話やバオバブの木の云い伝えを知る ・発見！マラウイボックス ・「これは何でしょう」クイズ	・アフリカのイメージの作文（事前に書いたもの） ・地球儀 ・バオバブの実や絵、国旗、マラウイボール、バオ、ノート、食べられる実、メイズフラワー、紅茶、教科書、お金
3	比べてみよう！ 私たちとマラウイの子どもたち	・子どもたちのアンケートを比べ、違いや似ているところなどについて感想を持つ ・DVDを見て、マラウイについて感想を発表したり思いを書いたりする	・マラウイの子どもたちとクラスの子どものアンケート ・マラウイDVD（細田順子先生提供）
4	レッツ！ マラウイ体験	・マラウイの衣食住について知ったり体験したりする ・チテンジ巻き ・水運び（頭にバケツを乗せて水の代わりに粘土を運ぶ）、手洗い体験 ・シマのオリジナル料理を考える	・チテンジ ・水運びの写真、やかん、バケツ、たらい、粘土 ・シマ ・バオバブジャム
5	オースティン君の話	・マラウイの人の平均寿命やエイズ孤児で自らも病氣と闘っているオースティン君の話聞いて考えを話し合う	・オースティン君の話をもとめたもの ・平均寿命の数字の提示
6	星野さんの話	・マラウイで活躍されていた元青年海外協力隊員の星野さんから直接話を聞く	・パワーポイント（マラウイでの活動の様子等の写真）
7 ・ 8	世界に発信！ みんなの願い	・今までの学習を通して考えた自分がしてみたい協力隊活動について発表する ・バオバブの絵の中に、世界の人へ伝えたいことや自分たちの願いを書く ・音楽会で「ハナミズキ」の曲を演奏した時の感想や絵、マラウイの学習を通しての世界へのメッセージを書き、テレビ番組「行列のできる法律相談所」の司会者、島田紳助さんに送り世界への思いを広げる	・マラウイDVD（細田順子先生提供） ・バオバブの絵を印刷したワークシート ・ビデオ（「行列のできる法律相談所」番組より）

1 時限目

届いたよ！みんなの想い

「先生、本当に届いたん？」ワーという歓声の声とともに、食い入るように写真を見つめる子どもたち！日本の習字やカルタに喜ぶマラウイの子どもたちの写真をせると、驚きとうれしさを隠せず、「マラウイは遠かった？」「どんな学校？」と、矢継ぎ早に質問攻めにあった。

カルタを作った時は、マラウイという国は子どもたちにとってほとんど知らない国名であった。しかし、自分たちの書いた習字やカルタが本当に届いたことを知り、アフリカにある遠い国としか感じていなかったマラウイが急に身近になり、俄然学ぶ意欲が高まったようだ。

そこで、子どもたちのカルタを届けたお礼に、マラウイの子どもたちにもカルタを作ってもらったことを知らせた。マラウイで授業した際に「大切なもの」というテーマで書いてもらったものだ。それを使って楽しく遊ぶことで、マラウイについて学んでいく導入とした。



届いたよ！みんなの想い



マラウイカルタをしたよ

児童の感想

- ・マラウイカルタはとてもおもしろかったです。一つしかないボールペンでカルタを書いてくれたことで、どれだけ優しいかがわかりました。マラウイの人は、とても絵がうまかったです。1班ではぼくが(カルタを)8枚取って1位でした。とてもうれしかったです。マラウイの人にありがとうの手紙を送りたいです。マラウイのみんな、ありがとう！
- ・ぼくはカルタをしてみて、とても楽しかったです。マラウイの人が一生懸命作ってくれたんだなと思いました。マラウイの人も、ぼくたちがあげたカルタで遊んで喜んでるかなあと思いました。
- ・カルタで日本の人の大切なものはお金とか家族だったけれど、マラウイの人は、うさぎとか木、家やヘビが友達だったのがすごい。私なら人形とか本とかだけど、マラウイの人はそんな物がなから、こういう物なんだと思う。マラウイの人は、主に生きたもの、この世にないといけなものを書いている。こういうことが子どもなのに書けるということは心がきれいな人なんだと思う。

- ・今日の4時間目にマラウイの人が書いたカルタで遊びました。マラウイの人はファミリーとかハウスとかを書いていました。私はマラウイの人は絵が上手だなあと思いました。私たちも1学期にカルタをマラウイの人たちに作りました。先生から「喜んでいたよ。」と言われて私はすごくうれしかったです。習字も書きました。喜んでくれたと思うと、とてもうれしいです。

2 時限目

マラウイってどんな国？

子どもたちが興味を持ったところで、マラウイがどんな国なのか、これから学習を深めていくことを伝えた。アフリカにあるということは知らせていたので、子どもたちにアフリカのイメージを聞いてみると、「暑い」、「動物がたくさんいる」、「ジャングル」etcというような漠然としたイメージが挙がってきた。

そこで、事前に世界地図や地球儀でマラウイの位置を確認したり、気候や自然の様子等を知らせたりしながら、マラウイの概要について説明した。

この日は参観日ということもあり、保護者の人にもマラウイのことを知ってもらいたいと思い、授業を考えた。

まずバオバブの実をおもむろにボックスから出す。CMにも出ている木であることを伝えると、とても興味を持ったようだ。「食べられるんだよ！」と言うと、わざわざ前に出てきて、つついたり触ったりする児童もいた。

「発見！マラウイボックス！」と称して、何箇所かにマラウイで仕入れてきたものを置き、自由に見て感想を書くことにした。黒板には写真を貼り、そのコーナーはクイズを解きながら考えるコーナーとした。保護者も入り乱れて興味深く見ておられた。こちらが説明することもよいが、見たり考えたりしながら意欲を高めたいと考えたからだ。

授業後、保護者からも感想が届き、うれしいひとときとなった。

発見！マラウイボックスの中身

- ・バオバブの実 ・食べられる大きな豆
- ・マラウイ紅茶 ・石 ・太鼓とパチ
- ・教科書(算数、図工、理科) ・ノート
- ・バオ(マラウイの遊び道具) ・チテンジ
- ・マラウイボール ・マッチ
- ・シマをまぜるしゃもじ ・お金 ・絵
- ・メイズフラワー



バオバブの実を見る子どもたち



3択マラウイクイズ
「この人はなぜ踊っているのでしょうか？」



世界地図の前で



金平授業より

保護者からの手紙

今日はとても貴重なものを見させていただき、ありがとうございました。このような機会を子どもたちが持つということは、世界に目を広げるとてもよい勉強になると思います。家に帰ってからいろいろな話題になりました。

児童の感想

- ・マラウイボックスのものは、めずらしいものや日本にもあるものがありました。一番驚いたのがマラウイボールです。先生に聞くと、ビニールとかを集めて作ったときいてびっくりしました。日本では、ボールは買えばすぐ手に入るのに驚きです。それに子どもたちが自分で作ったからです。次はノートです。とても軽いし、あまり紙がよくないこともわかりました。
- ・太鼓を鳴らしてみたら、とてもいい音が出ました。教科書には人の顔がおもしろくて、日本と違っていました。マラウイの人が、どんなものを使っているかがわかりました。
- ・チレンジはいろいろなことに使えていいと思います。頭に巻いたり体に巻きつけたりして、あと赤ちゃんを抱くのにも使うそうです。日本ではビニールとかでもすぐ捨てるけど、いろいろなものを大切にしていて、環境にもいいと思いました。
- ・ぼくがすごいと思ったのはボールです。落ちていた袋とかロープで作ったボールでした。これでマラウイの子たちはいつも遊んでいるのかなと思いました。バオバブもです。水気がなくてカラカラでした。味は歯にくっついて、キャラメルみたいでした。

3時限目

比べてみよう！わたしたちとマラウイの子どもたち

マラウイのものを見て楽しんだところで、以前行ったクラスのアンケートとマラウイの子どもたちに聞いたアンケートを比べてみることにした。国や環境、民族の違い等を踏まえ、子どもたちの意識を比べたり、考えさせたりしたいと思ったからだ。

アンケートを通して、子どもたちにとっても様々な発見があったようだ。似ているところや違いに目を向けながら、興味深く話し合うことができた。

児童の感想

- ・マラウイと日本ではとても違いがあることがわかりました。好きなものなど、マラウイではほとんどの人がシマでした。日本はたくさん種類があるから、みんなの好きなものもバラバラで、日本の生活がぜいたくなのがよくわかります。
- ・私は、女の子の夢が似ていると思いました。マラウイの人も女の子は薬剤師とか医者とかが多くて、日本の女の子も看護師や薬剤師が多かったからです。マラウイの男の子は兵士とかドライバーとかがあって、日本と違うなあと思いました。マラウイの人もたくさんの夢を見つけてすばらしい大人になってほしいです。日本のみんなは、マラウイの人のことを考えて、少しでも助けたり役に立ったりできることがあればあげたいです。
- ・マラウイの人は教育を大事にしているということがわかりました。マラウイの人は、後世に立派な人を残そうと必死なんだなと思いました。
- ・尊敬する人は、日本では父母が多かったけれど、マラウイは神様というのがすごいと思いました。やっぱり日本とはまったく違う生活環境なんだなと思います。

<アンケート(マラウイの友だちVS日本5年生)>

○尊敬する人

<マラウイ>100人中

1. 神 (43人)
2. 両親 (18人)
3. 母 (14人)
4. 先生 (13人)
5. 父 (4人)
大統領 (4人)

<日本>40人中

1. 家族 (13人)
 2. 母 (5人)
 3. 両親
- その他
(イチロー・松坂選手・中村俊輔・総理大臣・祖母・姉・友だち など)

○大切なもの

<マラウイ>	<日本>
1. 教育 (44人)	1. 家族 (25人)
2. 職業人 (18人)	2. 命 (10人)
3. 食べ物 (7人)	3. 友だち
4. 命・人生	その他
5. 神・宗教	(人形・石・お金・おこづかい・バット・グローブ・ボール・服・ゲーム・家・水晶 など)

4時限目

レッツ！マラウイ体験

環境や意識の違い等が見えてきたところで、実際のマラウイの生活がより身近に感じられるようにしたいと思い、物を運ぶ体験をしたり、シマのオリジナル料理を考えたりすることにした。

子どもたちはマラウイボックスの中でもやはり食べ物に目がいくらしく、パオバブ、ジャム、シマのメイズフラワーなどにはとても興味を持っていた。また、写真で見たマラウイの女性が、頭にバケツを乗せて水を運んでいるのにとっても驚いていた。そこで、「レッツ！マラウイ体験」ということで、何人かの児童に頭にバケツを乗せて歩いてもらうことに！

「先生、こんなの毎日しよるん？」、「歩けるけど、首が痛くなると思う」。

感想は様々だったが、水を汲みにいくのが日常生活であることに日本との違いを痛感したようだった。

シマの方は、「食べてみたい！」、「どんな味かな？」と想像しながら、料理を考えていた。ただ、日本の豊かな食生活や食材をイメージして考えているので実態にはそぐわないが、マラウイをより身近に考える機会にはなったと思う。

料理を考えた後、「じゃあ、どうしてマラウイの人は、みんなのように、いろいろバリエーションを考えてシマを料理しないのかな？」と投げかけると、「日本のようにいろいろな食材がないから」、「貧しくて、買いたいけど買えない」等、初めてマラウイの人の大変さや生活の様子に気づいたようだった。そういう意味では、この体験は子どもたちにとってマラウイの生活観を感じるよいきっかけとなった。



バケツを頭に乗せて



シマのオリジナル料理新聞

児童の感想

- ・日本にはごはんがあるけど、マラウイはシマなんだなと思いました。日本のどうもろこしは黄色だけど、マラウイは白ということにびっくりしました。
- ・シマとごはんは全く違います。マラウイの人はそれを毎日食べると聞いてびっくりしました。マラウイの人は好物を選ぶことができません。僕だったら、きっとわめいてしまうと思いました。
- ・日本の人は、カレーライスとかステーキとかを普通に食べているけど、マラウイの人はそんなに高いものは食べられないから、いつもシマなんだなと思いました。だから、私たちは食事のときも、残して捨てたり生ごみを出したりしないで、マラウイの人やほかの国の人で貧しい人がいるなら、寄付をしてあげたいなと思いました。マラウイと日本の食事は全然違うと思いました。

5時限目

オースティンくんの話

子どもたちにとって、マラウイがずいぶん身近になってきた。しかし、まだその違いを楽しんでいるところがあり、自分としてはもう一歩踏み込んで子どもたちの心を揺さぶるものが欲しいと考えた。

そこで、エイズ感染者の方や病気の方とともに助け合いながら暮らしていたマラウイの村の話を取り上げ、オースティンくんからの聞き取りの話をもとに、自作の資料を用意して子どもたちにぶつけた。子どもたちにとって平均寿命の違いやエイズの話はかなり衝撃だったようだが、国の違いを乗り越え、共感しながら聞いていた。

マラウイだけでなく、貧困や病気です苦しんでいる国も多いことを伝えることで世界へも視野が広がったように思う。

【オースティンくんの話】

みなさんは、平均寿命という言葉を知っていますか？

例えば、日本では約80歳ですよね。では、マラウイでは…平均寿命40歳です。この数字を見てみなさんは、どんなことを考えますか？

オースティンくんの両親は、エイズという病気です亡くなりました。オースティンくんは日本の小学校2年生くらいです。両親がいないので、今は

親戚のおうちに引きとられています。オースティンくん自身も病気で時々おなか痛くなって、つらい時があります。病院になかなか行けないので、村にまわってくるボランティアの人に薬をもらいます。日本から、先生たちのグループが村にやって来て、お米とサッカーボールをくれました。オースティンくんは大喜びで、そのボールをだきしめながら、いつまでも先生たちを見送っていました。

(マラウイでの聞き取りより…自作資料)

児童の感想

- ・日本の平均寿命は約80歳なのに、マラウイは40歳ということにびっくりしました。オースティン君はまだ2年生なのに、両親が亡くなってとてもかわいそうでした。ピースリボンのことも聞いて、私もボランティアがしてみたいなあと思いました。日本とマラウイは全然違うけれど、マラウイの人はがんばっているんだなあと思いました。
- ・エイズの話を知って、こわくなってきました。住む環境も違うし、文化なども違うからこのようになるのかもしれないと思いました。ピースリボンは最初かわいいと思っていたけど、「病気の子どもたちが少しでも守られるように」との願いもこめられている大切なリボンと思いました。
- ・日本人の半分しか生きられないマラウイの人の現実を知り、悲しくなりました。先生たちがサッカーボールをあげて、オースティン君は大喜びで、そのサッカーボールを抱きしめていて、すごくかわいそうでした。早くエイズを治せるようになってほしいです。そうしたらマラウイの人がみんな助かると思います。

6時限目

星野さんの話

11月に入り、いよいよマラウイから山口に帰国された元協力隊員の星野由有さんをお呼びすることになった。現地で実際に生活された体験は、何にもまして子どもたちの心に強く残るであろうと予想しながら、子どもたちはもちろん、私自身もわくわくして当日を迎えた。

現地でお会いした時そのままの笑顔と輝きで、子どもたちにわかりやすく語りかけてくださった。食いいるようにパソコンのスクリーンを見つめる子どもたち。また、「Local Available Resources (身の回りにあるものを有効に使う)」の発想は、豊かな日本にあって子どもたちには想像できないような世界だったようだ。「アフリカの人だからとか、黒人だからと、ひとくくりで言う考えはと

ても怖い。同じ人間。そんなのは乗り越えられるちっぽけな壁なんだよ。」との言葉が一番心に響いた。子どもたちにとって忘れられない、貴重な生きた学習の日となった。



チテンジを紹介される星野さん



あるものを使って綱引き

児童の感想

- ・星野先生、昨日はありがとうございました。マラウイの話はとてもびっくりしました。マラウイの学校では机もあまりないから、一つの机に3人ですわって、その机に一つの教科書。そしてマラウイの家には台もない、はしもない、あまりいいところはないと思ったけれど、ぼくは一つを見つけました。それは、何もなければ自分で作る、環境にとってもいいすばらしい所だと思いました。
- ・ぼく達は、先生にマラウイがどんなところかある程度は教えていただいていたので、少しは知っていました。でも星野先生は2年間もマラウイにいらっしやっただので、もっと詳しいお話が聞けると、わくわくしていました。マラウイにはマラリアという病気を引き起こす蚊がいることを聞いて、まさか体重がいつべんに12kgも減るなんて、とんでもない病気だと思いました。使えるものは何でも使うというのがマラウイなんです。日本では買えばなんでも手に入る国なので自分たちで作るということではないので、違うなあと思いました。たとえばゴミ袋でも有効に使うのがすごいなあと思いました。
- ・マラウイでは日本と生活の時間がぜんぜん違うなあと思いました。毎日まきを拾ったりする生活も大変だと思いました。すごいと思ったのは「身の回りにあるものを有効に使う」ということです。日本ではそういうことがないから、マラウイの人は頭がいいなあと思いました。
- ・ジャククリーンの一日はとても早く寝て、朝は4時くらいに起きるのですごいと思いました。家族みんなにマラウイのことを教えたいと思いました！ Zikomo (ありがとうございました！)

7・8時限目

世界に発信！みんなの願い

浜っ子トークで

星野さんの話を受けて、マラウイに現在いらっしやって、協力隊として活躍しておられる方のDVDを見た。「あ、星野先生も写ってる！」その方から直接話を聞けたとあって、子どもたちは大喜

び。マラウイへの思いが更に盛り上がってきたところで、朝のトークの時間を活用して「自分だったら、どんな協力隊員になりたいか」を話し合った。これには校長先生はじめ、同学年の先生方も見に来られ、子どもたちは、緊張しながらも意欲的に発表していた。まとめの意味もこめて、パオパブメッセージと称して、自分たちの思いを感想に書いた。

世界に届け！わたしたちの思い

2学期半ばから、マラウイの学習と平行して、本校では音楽会に向けての練習が始まっていた。私自身、何とかこの学習と結びつけて子どもたちの思いを具体的に表す場はないかと考えていたところだった。

折しも『行列のできる法律相談所』というテレビ番組で、「カンボジアに学校を建てよう」というプロジェクトのテーマ曲(ハナミズキ)がながれ、子どもたちの世界への思いをこめた曲はこれだ！と発表曲に取り上げた。

いよいよ迎えた当日。たくさんの保護者の方の前で、演奏する子どもたちの姿は輝いていた。音楽会后、更に子どもたちの思いはふくらみ、番組あてに自分たちの世界で1枚しかない“夢の校舎”を描いて送りたいということになった。

マラウイの学習から世界への目が広がり、自分たちも何かしたい、役にたてることはないか、との思いが強くなっているのを感じた。

みんなの夢が、世界中へ届くといいな！

児童の感想

紳助さん。私たち中関小学校の5年生は、マラウイという貧しい国の勉強をがんばってきました。

夏休みに先生がマラウイに行くので、カルタや習字を書いて届けてもらいました。先生が「すごく喜んでたよ！」と言っていたので、私はもっとできることはないのかなと思いました。浜っ子トークの時、私はすぐに「病院協力隊」になりたいと考えました。理由は、自分の将来の夢がお医者さんか薬剤師なので、両方の夢に向かうのがいいかなと思ったからです。また、マラウイは病院が遠いので、助けてあげたいと思ったからです。

日曜日に音楽会がありました。合唱はフレンドシップで、合奏はハナミズキでした。フレンドシップは世界の友達のことを思い浮かべて心を込めて歌いました。ハナミズキは「カンボジアに学校を建てよう」のテーマ曲にもなっていたので、カンボジアや世界の人に届くように5年生の心をつにして演奏しました。紳助さんが大好きというみわりと一緒に、子どもたちもぐんぐん育っていて、カンボジアにまた大きな学校を造ってくれることを願っています。



浜っ子トーク(どんな協力隊員になりたい?)



音楽会にて(ハナミズキ演奏)



世界に届け!みんなの願い



島田紳助さんから色紙が届いた!

成果と課題

子どもたちにとって未知の国であったマラウイ。けれども、授業をするうちに、子どもたちの中にもっと知りたいという気持ちが高まっていったことがうれしかった。それに押されて、自分としても楽しく授業が進められたように思う。始めは文化や生活の違いにおもしろさを感じていた児童も、オースティン君の話のあたりから、世界には様々な問題があることに気づき始めたように思う。

更に、星野さんの話を直接聞いたことは、大変インパクトになった。また、音楽会を通しマラウイのことから、カンボジアという他の国のことも知る機会を持てたことで、子どもたちの目がより広がったように思う。授業の中で、自分の考えを書くことが多かったが、子どもたちの中には、しっかりとした考えを持っている者もいて、こちらが学ぶことばかりだった。

課題としては、子どもたちの思いをどう今後につなげるかということである。いろいろなことを考える姿勢ができてきたところで、更に自分たちの身近な問題や課題にも目が向けられるようになってほしいと願っている。世界のことは即、自分たちのことでもあるということに気づいてほしいなと思った。

最後に、このような研修の機会を与えていただいた職員の皆様や保護者の方々に、心より感謝申し上げます。

参考資料

【書籍】

- ・池田 香代子、マガジンハウス編(2006)
『世界がもし100人の村だったら 4 子ども編』マガジンハウス
- ・ユニセフ(国連児童基金)著(2006)
『世界子ども白書2006』(財)日本ユニセフ協会

【映像】

- ・日本テレビ「行列のできる法律相談所」ビデオ
- ・細田順子氏提供「マラウイDVD」

【資料】

- ・三宅典子氏提供「マラウイアンケート」

【ホームページ】

- ・外務省、各国地域情勢：マラウイ共和国
<http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/malawi/index.html>